令和二年って・・・・・

館邑会理事長挨拶

令和二年は、東京オリンピック・パラリンピックで盛大に盛り上がる年になるかと思っていました。しかし、「新型コロナウイルス」が中国武漢市から発生し、時期も中国の旧正月である春節と重なったため、大勢の観光客を受け入れた日本でも感染が広がってしまい、「感染症と戦う年」になってしまいました。この事は、大勢の障がい者支援を行う、私たちにとって、「絶対に感染を持込まない。」「感染させない。」と、精神的・身体的に辛いものがあります。可能な限りのアルコール消毒・日々の検温・入所通所を問わず全施設、取り組んでいます。一日も早いワクチン開発の成功とコロナウイルスが衰退することを願っています。

さて、館邑会陽光園が出来て四十年を迎えようとしています。生活介護施設陽光園（通所）の建物も四十年を迎えようとしています。当時、自己資金は殆ど有りませんでした。国や館林市・邑楽町からの補助金だけでは足りず、地域の皆様の温かいご支援（百円募金）を頂き、建設することが出来ました。その建物も丁寧に使ってきましたが、老朽化の為、建て替えの検討が始まりました。地域から通ってくる利用者たちが快適かつ安全に利用できる建物を造りたいと思います。

理事長　山川　博

笑顔の花が咲くように

陽光園

陽光園が開所してから、今年度で四十年が経過しますが、新型コロナウイルスの影響により新たな生活様式でスタートした新年度。職員も利用者さんも特別な思いで迎えたことだと思います。そのような状況下でも、陽光園では通常通りの活動を続けており、利用者さんは変わらず明るく元気よく登園しています。新しい仲間も増え、現在六十四名の利用者さんが登録されており、にぎやかな毎日を過ごしています。日中活動では枕カバー伸ばし作業や段ボール組み立て作業をはじめとし、ミルクポーション分別作業等リサイクル活動にも携わっています。そして、コロナ禍の状況でも園外活動で身体を動かし、季節を感じられる場所で散策を楽しんでいます。自粛生活を余儀なくされ、楽しみにしていたイベントも中止になってしまいましたが、制限されている中でも影響のない範囲で楽しく過ごしてもらいたいという思いもあり、園の中で豪華なお弁当を楽しむランチ会を開き、利用者さんから大好評をいただきました。自粛要請が解除されてからは、館林特別支援学校を始め、たくさんの見学者が訪れています。厳しい毎日でも、利用者さんの変わらない笑顔で癒され、そして職員も笑顔になるそんな笑顔あふれる陽光園であり続けたいと願っています。

生活支援員
勤続７年　　島田　知実